

1 大阪医科薬科大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である大阪医科薬科大学病院、専門研修連携施設である国立循環器病研究センター、兵庫県立こども病院、関西労災病院、市立ひらかた病院、高槻赤十字病院、松下記念病院、康生会武田病院、城山病院、第一東和会病院、洛西シミズ病院、シミズ病院、岡波総合病院、天理よろづ相談所病院、暁生会脳神経外科病院、心臓病センター榊原病院、大阪医科大学三島南病院、千船病院、守口敬仁会病院、宮崎善仁会病院、公立八鹿病院、高槻病院、和歌山県立医科大学附属病院、琉球大学病院、藤田医科大学病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供する。麻酔、ペインクリニック、集中治療、救急医学、緩和医療を網羅したジュネラリストと、心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔などの専門分野を有するスペシャリストの両面を備えた麻酔科専門医を育成する。

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 4年間で手術室麻酔の各専門分野（心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔など）を網羅的に研修するだけでなく、麻酔科専門医に求められるペインクリニック、集中治療、救急医療、緩和医療に関しても一定期間研修する。
- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間は、専門研修基幹施設の大阪医科薬科大学病院で研修を行う。
- 専門研修基幹施設では手術麻酔だけでなくペインクリニックや集中治療を調整の上、一定期間ローテーションする。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

最低経験症例を満たしながらも、各自の希望を相談しサブスペシャリティーの構築を目指す柔軟なプログラムとする。

2019年度入局レジデントの研修先

	1年目	2年目	3年目	4年目
A医師	大阪医科大学附属病院	天理よろづ相談所病院	心臓病センター榊原病院	大阪医科薬科大学病院
B医師	大阪医科大学附属病院	天理よろづ相談所病院	国立循環器病研究センター	大阪医科薬科大学病院
C医師	大阪医科大学附属病院	松下記念病院	第一東和会病院	大阪医科薬科大学病院
D医師	大阪医科大学附属病院	大阪医科大学附属病院（前半） 愛仁会千船病院（後半）	大阪医科薬科大学病院	大阪医科薬科大学病院
E医師	大阪医科大学附属病院	市立ひらかた病院	兵庫県立こども病院	大阪医科薬科大学病院
F医師	大阪医科大学附属病院	葛城病院（前半） 北摂総合病院（後半）	第一東和会病院	大阪医科薬科大学病院

●1年目は大阪医科薬科大学病院で、心臓血管外科、呼吸器外科、産科・小児科、脳神経外科の麻酔を2ヵ月ずつ集中的に研修する。

●手術麻酔以外では、ペインクリニック、集中治療の2分野を2ヵ月ずつ研修する。

2020年度入局レジデントの研修先

	1年目	2年目	3年目
A医師	大阪医科大学附属病院	天理よろづ相談所病院	心臓病センター榊原病院
B医師	大阪医科大学附属病院	天理よろづ相談所病院	兵庫県立こども病院
C医師	大阪医科大学附属病院	北摂総合病院	天理よろづ相談所病院
D医師	大阪医科大学附属病院	松下記念病院	第一東和会病院
E医師	大阪医科大学附属病院	愛仁会千船病院	愛仁会千船病院
F医師	大阪医科大学附属病院	城山病院	第一東和会病院
G医師	大阪医科大学附属病院	市立ひらかた病院	市立ひらかた病院



4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

大阪医科薬科大学病院

研修実施責任者：日下裕介

専門研修指導医：南敏明（麻酔，ペインクリニック）

梅垣修（集中治療）

日下裕介（心臓血管麻酔，集中治療）

間嶋望（小児麻酔）

門野紀子（集中治療）

下山雄一郎（集中治療）

中野祥子（小児麻酔）

藤原 淳（心臓血管麻酔）

上野健史（小児麻酔）

長峯達成（心臓血管麻酔）

佐野博昭（ペインクリニック）

北埜学（小児麻酔）

藤澤貴信（心臓血管麻酔）

山崎紘幸（集中治療）

野田祐一（集中治療）

鳥井理那（ペインクリニック）

徳永友里（ペインクリニック）

牧澤佑樹（心臓血管麻酔）

三井寛明（心臓血管麻酔）

三島洋輝（ペインクリニック）

愛甲一樹（ペインクリニック）

金城碧（手術麻酔）

島津愛陽（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：19

特徴：2016年3月より、新中央手術棟（手術室20室、集中治療室16床）が新設され、麻酔科医局は手術室・集中治療室に隣接しています。当院では、2025年度、全手術件数13,325件、全身麻酔症例7,669件の実績があります。豊富な麻酔症例を経験でき専門医必要症例を全てバランスよく研修することが可能であり、さらに集中治療・ペインクリニックの研修も可能です。また、種々のセミナー（麻酔科学関連だけではなく、学会発表のためのPower Pointの使い方、統計など）の開催、専門医試験対策、学会発表・論文作成の指導、将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています。ペインクリニック外来は、1966年、故兵頭正義教授が日本においては東京大学に次いで2番目に開設され、伝統があります。

麻酔科管理全症例数：7669

小児（6歳未満）の麻酔：271

帝王切開術の麻酔：219

心臓血管手術の麻酔：407

胸部外科手術の麻酔：378

脳神経外科の麻酔：486



大阪医科薬科大学病院手術棟3階

② 専門研修連携施設

国立循環器病研究センター（以下、国立循環器）

研修実施責任者：前田琢磨

専門研修指導医：金澤裕子（心臓麻酔）

前田琢磨（心臓麻酔）

南 公人（心臓麻酔）

下川 亮（心臓麻酔）

月永 晶人（心臓麻酔）

森永 将裕 (心臓麻酔)
三浦 真之介 (心臓麻酔)

麻酔科認定病院番号：168

特徴：センター手術室は12室であり、そのうち4室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室やCOVID対応陰圧手術室も設置しています。特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓移植はおよそ月1回程度あります。麻酔科医はスタッフ8名レジデント18名で対応しています。休日を含めた毎日、麻酔科医2名が当直、オンコール1名ですべての緊急症に対応しています。

③ 専門研修連携施設

兵庫県立こども病院 (以下、こども病院)

研修実施責任者：香川 哲郎

専門研修指導医：香川 哲郎 (小児麻酔)

高辻 小枝子 (小児麻酔)

大西 広泰 (小児麻酔)

宮本 義久 (小児麻酔)

上嶋 江利 (小児麻酔)

末田 彩 (小児麻酔)

藤原 孝志 (小児麻酔)

田中 康智 (小児麻酔)

上野 真穂 (小児麻酔)

麻酔科認定病院番号 93

特徴：小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。

小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター。

④ 専門研修連携施設

関西労災病院

研修実施責任者：上山 博史

専門研修指導医：

前田 晃彦 (麻酔、心臓血管麻酔)

上山 博史 (麻酔、産科麻酔)

田村 岳士 (麻酔)

清中 さわみ (麻酔)

田中 みちる (麻酔)

稲垣 佳苗 (麻酔)

専門医：

中村 藍 (麻酔)

河野 悠 (麻酔)

加藤 裕美子 (麻酔)

魚谷 美貴 (麻酔)

安田 めぐみ (麻酔)

下川 茉理（麻醉）

劉 嘉叡（麻醉）

認定病院番号：327

特徴：阪神地区の急性期医療、がん診療の中核病院。2台の手術支援ロボットを有し
消化器外科（食道、胃、大腸、肝臓、膵臓）呼吸器外科、泌尿器科、産婦人
科でロボット支援手術を行うなど領域によっては教育機関と同等以上の医療
を实践。また心臓血管外科、脳神経外科、末梢神経ブロック施行症例も豊富で
ある。

⑤ 専門研修連携施設

市立ひらかた病院（以下、市立ひらかた病院）

研修実施責任者： 宮崎信一郎

専門研修指導医：宮崎信一郎（麻酔・ペインクリニック）
吉本嘉世（麻酔）
出口志保（麻酔）

麻酔科認定病院番号：956

特徴：基幹型臨床研修病院（緩和ケア病棟付き）、

北河内医療圏（人口110万人）唯一の公的総合病院

第2種感染症医療機関

ペインクリニック外来

股関節唇形成術、人工股関節置換術、人工膝関節置換術、胸部外科手術、帝王切開に
対して硬膜外麻酔を施行するので、硬膜外麻酔を豊富に経験可能（硬膜外麻酔併用、
単独併せて683件）。

⑥ 専門研修連携施設

日本赤十字社 高槻赤十字病院（以下、高槻日赤）

研修実施責任者：澤井俊幸

専門研修指導医：澤井俊幸
日下仁美

麻酔科認定病院番号 21401703

特徴：一般麻酔、胸腔手術麻酔(呼吸器、食道)

⑦ 専門研修連携施設

康生会 武田病院（以下、武田病院）

研修実施責任者：原 直樹

専門研修指導医：原 直樹（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1001

特徴：循環器疾患および整形外科疾患の取り扱いが多い。

⑧ 専門研修連携施設

医療法人東和会 第一東和会病院（以下、第一東和会病院）

研修実施責任者： 高橋陵太

専門研修指導医： 高橋陵太（麻酔・ペインクリニック・緩和ケア）
嗟峨慶子（麻酔）
氏野直美（麻酔）

麻酔科認定病院番号 1374

特徴：

三島地区医療圏における急性期病院として、特に急性腹症、脳卒中、整形外科の外傷受け入れ施設として重要な役割を果たしている。

急性腹症では、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、消化管穿孔の緊急手術が多い。

病床数248床に対し、麻酔科管理手術件数は3000件を超える豊富な症例数を有している。緊急手術の全身管理や、術後疼痛管理としての神経ブロックも経験できる。

⑨ 専門研修連携施設

清仁会 洛西シミズ病院（以下、洛西シミズ病院）

研修実施責任者：村谷忠利

専門研修指導医：村谷忠利（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：1355

特徴： 整形外科症例の病院。硬膜外麻酔や神経ブロックの症例数が多いこと。

また、ペインクリニック研修指定病院も取得していること。

⑩ 専門研修連携施設

琉球大学病院（以下、琉球大学病院）

研修プログラム統括責任者：垣花学

専門研修指導医：垣花 学（麻酔）

中村清哉（麻酔、ペインクリニック、緩和）

淵上竜也（麻酔、集中治療）

大城匡勝（麻酔）

照屋孝二（麻酔、集中治療）

野口信弘（麻酔）

神里興太（麻酔、集中治療）

宜野座到（麻酔）

仲嶺洋介（麻酔）

渡邊洋平（麻酔）

桃原志穂（麻酔）

幾世橋美由紀（麻酔）

渡慶次さやか（麻酔，ペインクリニック）
小田浩央（麻酔，集中治療）
和泉俊輔（麻酔）
林 美鈴（麻酔，集中治療）
松尾敬介（麻酔）
新里勇人（麻酔，ペインクリニック）
山川翔太（麻酔）
我喜屋亮太（麻酔）

専門医：福地万寿美（麻酔）
兼島充基（麻酔）
知念加奈子（麻酔）

麻酔科認定病院番号 49

特徴：先進的な幅広い症例が経験でき、指導体制も充実している。

集中治療、ペインクリニックを含む集学的な周術期管理を学べる。

⑪ 専門研修連携施設

パナソニック健康保険組合松下記念病院（以下，松下記念病院）

研修実施責任者：村田博昭

専門研修指導医：趙 崇至（麻酔，緩和）

楠大弘（麻酔，集中治療）

大地史広（麻酔，集中治療）

清水祥子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：139

特徴：地域医療支援病院であり、大阪府のがん診療拠点病院である。

2029年1月営業開始を目標として新病院（京阪門真駅前）への移転を予定している。

呼吸器外科が年間55例あった。

全身麻酔管理症例数を現在の約1650件から2000件に増やそうとしている。

⑫ 専門研修連携施設

医療法人春秋会 城山病院（以下，城山病院）

研修実施責任者：石橋 孝嗣

専門研修指導医：山崎 智己、塩崎 卓哉

麻酔科認定病院番号 922

特徴：

当院では、消化器外科、脳神経外科、整形外科（関節・脊椎・外傷）、泌尿器外科など幅広い診療科の手術に対して、年間約 2,000 例の麻酔管理を行っています。特に整形外科領域（脊椎・四肢・外傷）の症例数が多く、実践的な麻酔経験を豊富に積むことが可能です。麻酔管理においては、全身麻酔に加え、硬膜外麻酔や末梢神経ブロックを積極的に併用し、術後疼痛の軽減と早期回復を重視した周術期管理を実践しています。単なる安全な麻酔にとどまらず、患者満足度の向上を意識した麻酔管理を日常診療の中で学ぶことができます。また当院は地域の中核病院として、「緊急手術を断らない麻酔科」を掲げ、24 時間体制で緊急手術に対応しています。その結果、緊急症例は増加しており、緊急時の判断力・対応力を実地で養うことができる環境です。

現在、心臓血管外科手術は一時的に休止していますが、再開に向けた体制整備が進められており、今後はさらに多様な症例に対応可能な体制へと発展していく予定です。

⑬ 専門研修連携施設

医療法人大植会 葛城病院（以下、葛城病院）

研修実施責任者：藤井 啓介

専門研修指導医：藤井 啓介

麻酔科認定病院番号：1911

特徴： 整形外科の手術が多いです。硬膜外麻酔や神経ブロックを積極的に行なっています。

⑭ 専門研修連携施設

医療法人清仁会 シミズ病院

研修実施責任者：奥野隆司

専門研修指導医：奥野隆司（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1445

特徴：脳外科を主体とした急性期医療

⑮ 専門研修連携施設

社会医療法人 畿内会 岡波総合病院（以下、岡波総合病院）

研修実施責任者：高井 規子（麻酔）

専門研修指導医：高井 規子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1233

特徴：三重県、伊賀／名張地域の二次救急病院として、地域医療に貢献しています。

⑯ 専門研修連携施設

公益財団法人 天理よろづ相談所病院（以下、天理よろづ）

研修実施責任者：石井久成

専門研修指導医：石井久成（心臓麻酔）

中平淳子

山口直城

相山佑樹

麻酔科認定病院番号：83

特徴：地域の総合病院として、多種多様な麻酔症例を経験できます。2014年に手術室が新築され麻酔科的にとっても充実した働きやすい環境が整っています。心臓血管外科手術の麻酔が多種にわたり経験できます。TEEは麻酔科医と検査技師とが相補的に詳細な所見を取ります。TAVIは、ほぼ全例MACで麻酔科が管理しています。ハートチームの結束も固く、互いを尊重し合いながら切磋琢磨しています。かつて当院で小児期に心臓手術を行った患者、いわゆるAdult Congenital症例が増加しつつあります。複雑な循環動態の患者の、心臓・非心臓手術のチャレンジングな麻酔を施行しています。

⑰ 専門研修連携施設

藤田医科大学病院

研修プログラム統括責任者：中村 智之

研修実施責任者：中村 智之（麻酔、集中治療）

専門研修指導医：山下 千鶴（麻酔、集中治療）

原 嘉孝（麻酔、集中治療）

小松 聖史（麻酔、集中治療）

川治 崇泰（麻酔、集中治療）

専門医（FD講習受講）古賀 恵里（麻酔、ペイン）

永田 麻里子（麻酔、集中治療）

鈴木 紳也（麻酔、集中治療）

藤原 凌（麻酔、集中治療）

認定病院番号 104

特徴：

1. 国内トップクラスの手術件数・麻酔件数を誇り、一般的な疾患の麻酔管理から小児、ロボット支援下手術、移植手術（肺移植、肝移植、膵腎同時移植、膵単

- 独移植、腎移植)、心臓血管外科手術 (TAVIを含む) など特殊な病態・稀な疾患の麻酔管理まで幅広い研修が可能である。
2. 全年齢・全科対応のgeneral ICUを麻酔科医が管理している。急性血液浄化療法、ECMO、経空腸栄養、急性期呼吸リハビリを積極的に実施しており、重症患者に対する集中治療の研修が可能である。麻酔と集中治療を共に「侵襲制御」と考え、術後ICU管理も含めたシームレスな術中・術後の全身管理を研修可能である。術中麻酔管理だけでなく、幅広い分野で活躍する麻酔科医の育成に努めている。
 3. 敗血症など院内急変患者の対応だけでなく、院外からも重症小児救急、心臓血管外科疾患の救急、体外式膜型人工肺 (ECMO) による治療を要する重症呼吸不全、重症肝不全などを受け入れており、これら超重症救急患者に対する充実した研修が可能である。
 4. ECMO car、Drヘリを用いた重症患者の搬送を麻酔科医が主体となって行っており、ECMO transportの研修も可能である。
 5. ペインクリニック外来にて超音波ガイド下末梢神経ブロックの研修も可能である。
 6. 麻酔科医によるMET (Medical Emergency Team) を構成して、院内急変の対応を行っており院内救急の初期対応などの研修も可能である。麻酔・集中治療・救急以外の分野でもInfection control teamやNutrition support team、医療安全など、院内の横断的な組織にも麻酔科医が積極的に関与している。

⑱ 専門研修連携施設

社会医療法人信愛会 啜生会脳神経外科病院 (以下、啜生会脳神経外科病院)

研修実施責任者：山名健

専門研修指導医：山名健 (麻酔, ペインクリニック)

平田昌史 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：1368

特徴：脳神経外科の手術件数が多い。ペインクリニック外来も行っている。

⑲ 専門研修連携施設

社会医療法人社団十全会 心臓病センター榊原病院

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦 (心臓血管麻酔)

石井智子 (心臓血管麻酔)

麻酔科認定病院番号：1142

特徴：心臓外科領域の麻酔が主である。TAVI、MICSも症例数が多い。

㊦ 専門研修連携施設

大阪医科薬科大学三島南病院（以下、三島南病院）

研修実施責任者：辰巳真一

専門研修指導医：辰巳真一（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1352

特徴：当院は、大阪医科薬科大学病院や地域医療機関と連携して、救急・急性期医療から回復期・療養医療まで幅広い医療を提供するとともに、血液浄化センター、デイケアセンター、訪問看護ステーションを整備しているケアミックス型病院です。

㊧ 専門研修連携施設

社会医療法人愛仁会千船病院

研修実施責任者：角 千里

専門研修指導医：角 千里（産科麻酔）

星野 和夫（麻酔）

嘉山 邦仁（麻酔）

大山 泰幸（麻酔）

大嶋 圭一（麻酔）

平塚 剛（麻酔）

菅野 睦（麻酔）

渡邊 真理子（麻酔）

戸尾 まゆみ（麻酔）

麻酔科認定病院番号：770

特徴：初期研修医を受け入れる初期研修医を受け入れる308床の地域の総合病院ですので、大病院では経験しにくいcommon diseaseの待機手術や骨折や急性腹症などの緊急手術を幅広く行なっており、麻酔科医としての地力を鍛えることができます。2025年度麻酔科管理件数は4,473件/年、うち全身麻酔は2,233件/年でした。地域周産期母子医療センター、MFICU（6床）、NICU（15床）、ICU（4床）等を備え、24時間母体搬送に対応しています。分娩件数は2,600件/年と大阪府随一ですので、一般手術麻酔に加えてハイリスク妊婦を含めた帝王切開（667件/年）や無痛分娩（1,100件/年）等の産科麻酔を経験することができます。無痛分娩は麻酔科医が24時間対応し、カテーテル入れたら終わりではない質の高い鎮痛を目指しています。6ヶ月以上の期間でこれらの産

科麻酔を集中的に研修する態勢も整えています。また、減量・糖尿病外科が高度肥満症麻酔の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか、低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され、より低侵襲の手術も増加しています。

㉒ 専門研修連携施設

社会医療法人彩樹 守口敬仁会病院（以下、守口敬仁会病院）

研修実施責任者：江橋 千穂

専門研修指導医：三宅 均（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1148

特徴：腹部救急症例が多い。

㉓ 専門研修連携施設B

社会医療法人善仁会 宮崎善仁会病院（以下、宮崎善仁会病院）

研修実施責任者：栗山和子

専門研修指導医：栗山和子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1902

特徴：宮崎市東部地区における地域医療の中核病院であり、救急医療とへき地医療による社会医療法人の認可、災害拠点病院等の指定を受けています。2021年4月に内科系の系列病院及び総合健診センターと合併し、健診部門を兼ね備えた199床の急性期病院として、手術を中心として病院運営を行っております。主に外科、消化器外科、呼吸器外科、整形外科、婦人科、耳鼻咽喉科の麻酔管理を研修することができます。硬膜外麻酔の症例は最近では減少傾向と思われませんが、主治医の希望もあり呼吸器外科や外科の麻酔では術後鎮痛に可能な症例では硬膜外麻酔をよくとりいれています。整形外科の麻酔では脊椎麻酔やブロック注射も頻繁に行っています。

㉔ 専門研修連携施設

公立八鹿病院（以下、八鹿病院）

研修実施責任者：林 行雄

専門研修指導医：林 行雄（麻酔）

富 勝治（麻酔）

麻酔科認定病院番号：898

特徴：兵庫県西南但馬における地域医療の中核病院であり、へき地医療拠点病院、地域医療支援病院等の指定を受けています。380床のケアミックス型病院であり、各科の垣根が低いことも特長です。主に一般手術の麻酔管理を研修することができます。高齢者への麻酔が多く、100歳超の患者もめずらしくありません。

㊸ 専門研修連携施設

社会医療法人愛仁会高槻病院

社会医療法人愛仁会高槻病院

研修実施責任者：三宅隆一郎

専門研修指導医：三宅隆一郎（麻酔，心臓血管麻酔）

中島正順（麻酔）

土居ゆみ（小児麻酔，小児集中治療）

入澤友美（麻酔，区域麻酔，集中治療）

西田隆也（麻酔，集中治療）

棚田和子（麻酔，心臓血管麻酔）

認定病院番号：829

特徴：大阪北摂地域で新生児から高齢者まで幅広い層に急性期医療を提供している。総合周産期母子医療センターを備えているため産科・小児（新生児含む）麻酔を豊富に経験することができる。また緊急手術の麻酔症例も多く、心臓血管外科や脳神経外科等も含めた様々な手術の麻酔を研修することが可能である。

㊹ 専門研修連携施設

和歌山県立医科大学附属病院

研修実施責任者：川股知之

専門研修指導医：川股知之（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

時永 泰行（麻酔）

神田 浩嗣（麻酔）

栗山 俊之（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

山崎 亮典（麻酔、区域麻酔）

槇野 仁奈（麻酔）

平井 亜葵（麻酔）

黒崎 弘倫（麻酔）

吉田 朱里（麻酔、小児麻酔、心臓血管外科麻酔）

神田 佳典（麻酔）

丸山 智之（麻酔、ペインクリニック）

山崎 景子（麻酔、集中治療）

専門医：関 堯文（麻酔）

麻酔科認定病院番号40

特徴： ペインクリニック、緩和ケア、集中治療のローテーション可能

ロボット支援手術・経カテーテル大動脈弁留置術など先進的手術症例、高度救命救急センターならではの救急手術症例など多くの手術症例を経験できる。また、無痛分娩、エコーガイド下・透視下ブロックを駆使したペインクリニック研修、緩和ケア病棟・チームでの研修、集中治療の研修といったフレキシブルな研修ができる。

4. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、大阪医科薬科大学病院麻酔科専門研修プログラムwebsite, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

大阪医科薬科大学医学部麻酔科学教室 教授秘書 谷村

大阪府高槻市大学町2番7号

TEL 072-683-1221 内線2368

E-mail eri.tanimura@ompu.ac.jp

Website <https://www.ompu.ac.jp/u-deps/ane/>

5. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識**、**専門技能**、**学問的姿勢**、**医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**経験すべき疾患・病態**、**経験すべき診療・検査**、**経験すべき麻酔症例**、**学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

6. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

7. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3の患者の周術期管理やASA 1～2の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

8. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 多職種による専攻医評価

年度ごとに多種職（当院では現在のところ、看護副部長兼中央手術室看護師長、集中治療部看護師長、臨床工学技師長補佐、中央手術室担当薬剤師）による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年次以降の専攻医への指導の参考とする．

③ 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

9. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

10. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

11. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門

医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

12. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての天理よろづ相談所病院、岡波総合病院、赤穂市民病院、宮崎善仁会病院、八鹿病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

13. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価を行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。